

令和 6 年度補正予算事業に関する検証シナリオについての RIETI EBPM センターからのアドバイス

2025.4

RIETI EBPM センター

本アドバイスは、経済産業省における政策の効果検証をより深めていくため、大橋弘先生、北尾早霧先生、渡辺安虎先生、江藤学先生、戸堂康之先生を含む RIETI EBPM センターのアドバイザリー・ボードのメンバーにご意見を頂きながら作成したものです。

1. 全体について

- 2025 年 3 月 31 日、経済産業省により、中小企業省力化投資補助事業、中小企業成長加速化補助金、中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金、鉱物サプライチェーン多角化・安定化事業、グローバルサウス未来志向型共創等事業、宇宙戦略基金事業、量子コンピュータの産業化に向けた開発の加速事業、クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ事業についてのロジックモデルおよびアウトカム指標ごとの測定手法等が公表された。

(全体にかかるコメント)

- 事業開始前までに検証シナリオを具体化し、事業設計に反映させる取り組みは重要であり、大いに評価できる。今後のモデルケースになることが期待される。
- EBPM においては、「当該事業が実施されなかった場合にどうなっていたか」という観点が重要である。対照群のデータを厳密に取得することが困難な事業もあるが、公募時点で、採択の可否に関わらずデータ収集に協力を求める、採択企業の過去データ等を取得する等の取組を実施・継続することが期待される。また、グリーンイノベーション基金事業のように、採択企業に対し、「仮に採択されていなかったら、どういう行動を取っていたか」を調査することも有用である。
- 事業からインパクトへの繋がりがなるべく明らかになるようにすることが重要である。
- 事業終了後に、いわゆる因果推論による効果検証を実施するだけでなく、事業実施中も因果推論以外の検証方法も活用しながら事業の効果を把握し、次年度以降の改善に繋げることが望ましい。
- 研究開発型の事業は、専門家の確認を得ながら、ステージゲート形式で見直していくことが重要。その際、進捗の芳しくない事業を画一的に終了させるだけではなく、実施計画の修正や他事業との連携等といった事業効果の改善に向けた取組を実施し、その改善の見込み等に応じて事業を継続する選択肢も残しておくが良い。

2. 個別事業について

○ 中小企業省力化投資補助事業

- 採択企業の中での補助対象事業と補助対象外の事業の比較に加え、採択前と採択後の状況の比較検証も有用であると考えられる。
- 今後、取組を予定しているアウトカムの一定間隔でのモニタリングについては、政策実施過程で改善点を見つけ出す目的と合致しており意義がある。

○ 中小企業成長加速化補助金

- 企業の成長要因を見出すためには、各企業の成長経緯を辿ることが重要であり、他事業同様、公募時に採択企業の過去のデータを蓄積できる仕組みも重要。

○ 中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金

- 中堅企業政策の目指す姿である地域への賃上げの波及効果を検証する観点では、今回の事業の対象企業が存在しなかった地域・業種等と比較することも一案である。
- 類似事業の改善に繋げるため、公募時に過去に遡ったデータを蓄積して分析しており、評価できる。事業実績を踏まえて更なる分析を行うことが望まれる。
- 当該事業の取組に関連する内容として、賃上げ・投資が経済成長を促す経路について、検証の実施や検証方法を検討していくことは、意義のある取組だと考える。

○ 鉱物サプライチェーン多角化・安定化事業

- 将来の安定供給に向けて、長期に亘る銅の需要と供給を分けて把握することが重要。特に需要は、国内の状況であるため詳細な把握が可能と思われる。また、供給は、権益分以外として輸入される銅の量も把握した上で検討することが望ましい。
- 現案では、安定供給が失われた場合の影響を分析予定となっているが、実際は、権益確保により供給が多角化・安定化した場合の需給ギャップ解消と供給量や価格への影響が重要なので、この点に留意されたい。

○ グローバルサウス未来志向型共創等事業

- 事業の拡大後、比較が適当と考えられる事業未実施国を探し、本事業の実施国と比較することも一案。
- 一つの事業内でも、プロジェクトが実施される地域や支援内容によっても、国や参加企業というそれぞれの立場によっても価値が異なることもあるため、よりインパクトに繋がるような重要なプロジェクトを進めていくことが重要。
- 各企業の目標の達成状況と国としての目標の達成状況について両面的に確認していけると良い。

○ 宇宙戦略基金事業

- 2030年代早期という比較的近い時期の目標が置かれているが、より長期的な観点から市場創出効果等を見直し、事業の改善に繋げていくことが望まれる。
- 宇宙市場における各領域の政府支援の必要性について、ロジックモデル外において、説明していくことが必要。
- 今後は、本事業で目指すインパクトに向けて、事業効果の経路を意識しながら事業を進めていくことが望ましい。

○ 量子コンピュータの産業化に向けた開発の加速事業

- 政府が当該事業を行う理由が現状のロジックモデルには整理されているが、国際的な量子コンピュータの産業化の進展に併せて、当該事業の取組を適宜精査していくことが望ましい。
- 量子コンピュータの開発だけでなく関連市場の創出まで考慮して進めてほしい。

○ クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ事業

- ロジックモデルは明確で良いが、今後の検証の中で、地域別・設置場所の特性等種々の要因に配慮して適切な配置を検討し、事業の進め方に反映することが望ましい。

以上